



ナスの育て方

日本人の食卓にナスは欠かせない野菜で、漬け物、天ぷら等たくさんの調理法があります。日当たりの良い場所で栽培すればよく育ちます。果実の早取りと更新せん定で株を長く持たせれば、プランターでも秋ナスまで長期間楽しむ事ができます。



育苗

育苗からはじめるときは、5月上旬の定植適期の3カ月前（1月下旬から2月上旬に）、セルトレイ（4×5cm）にひと穴2～3粒タネまき、加湿して育苗する。寒さに弱い高温性の植物なので、定植までは加温、保温できる加温育苗機などで昼間25℃、夜間は18℃を保ちます。

ナスを苗作りから始めるのはとても手間がかかるので、初めての時や、少量栽培の時は市販苗の購入がオススメです

移植

本葉2枚で苗をそっとセルトレイからはずし、7.5～9cmのポリポットに移植する。苗が込んで来たらハサミで間引きし、1ポット1本にする。

容器	株数	植え方	一回の肥料
標準プランター	3	1条	20g
発泡スチロール箱	4	2条	40g
深型菜園プランター	4	2条	50g
ジャンボプランター	5	1条	60g

【肥料】
定植時に元肥を条溝施肥、以後20日おきに5～6回追肥。

【品種】
耐病性、耐暑性がある農産種を。「千両二号」「小五郎」「みず茄」など。なるべく接木苗を選ぶ。

市販苗はこちらからスタート

定植

◀4月下旬～5月上旬、本葉6枚の定植適期の苗。トンネルから出して4日ほど外気に慣らす。

株間20cmに植付ける。苗が倒れないように仮支柱を立てておき早めに本支柱を立てる。

孫側枝は放任 ↑ 主枝伸ばす
 側枝①伸ばす 側枝②伸ばす
 1番花
 下のわき芽（側枝）は摘み取る
 柱に誘引 1番花の下の2本側枝を伸ばし支

ナスの3本仕立て

生長して枝が立て込んできたら、中に光が通るように適当なところで枝を切り、間引きせん定します。

肥料・水やり

ナスは肥料食いです。長期栽培で株がスタミナ切れしないように、20日に1回定期的な追肥を行います。肥料の効き過ぎによる樹ボケを防ぐため、必ず緩効性肥料を使い、土壌を乾かさないうつ十二分に水やりをしましょう。真夏は1日2回は必要です。

収穫

実が10cmくらいに生長したら収穫。取り遅れ、取り忘れないように。

更新せん定

秋ナスどりに欠かせない管理、株を若返らせる

8月上旬株の若返りをはかるために更新せん定を行う。わき芽が伸びはじめている節の部分まで、すべての枝を約3分の1の長さで切り落とす。

Point! 穴あけ

栽培後期になるとネがプランター内に充満して酸素の供給が悪くなるので、数カ所土に穴をあけて酸素と水の流れをよくしてあげましょう。

秋ナス収穫

8月上旬までに更新せん定を行い新芽を伸ばし、追肥と穴あけで株のスタミナを持続させれば、晩秋まで収穫を続ける事ができます。

美味しそうでしょ★